

# 醍醐寺周辺エリア

～旧奈良街道・金剛王院(一言寺)～

-  視点場（境内）
-  特に着目する通り
-  視点場（参道等）

## エリア概要

- 醍醐地域は、東西の山地が接近し、その中間に独立丘（中山）があり、緑豊かな地形が形成されており、醍醐寺及び随心院などを核として、かつては山地と寺院、そしてこれを取りまく農村という構図を構成していたが、近年、住宅団地、さらには小さな空地进行を小規模敷地の宅地開発が穴埋めしながら住宅地化してきている。

- 山ろく部の大規模敷地の豊かな緑化が、背景の山の森林と一体となって、この地域の眺望景観を形成している。
- 随心院、醍醐寺・三宝院などの重要な景観要素と三宝院前（旧奈良街道）の伝統的な農家群、そしてわずかに残る独立丘陵の緑地部分などが、この地域の原風景を伝えている。

## 旧奈良街道

明治初期の古地図にも鮮明に記載がある道であり、町家、土塀のある民家などが断続的に続き、寺院と街道が独特の風趣あるたたずまいを醸し出している。緑豊かな住宅も多く、境内側の築地塀や松林などの組み合わせが整った景観構成を見せており、醍醐寺との一体感が感じられる。

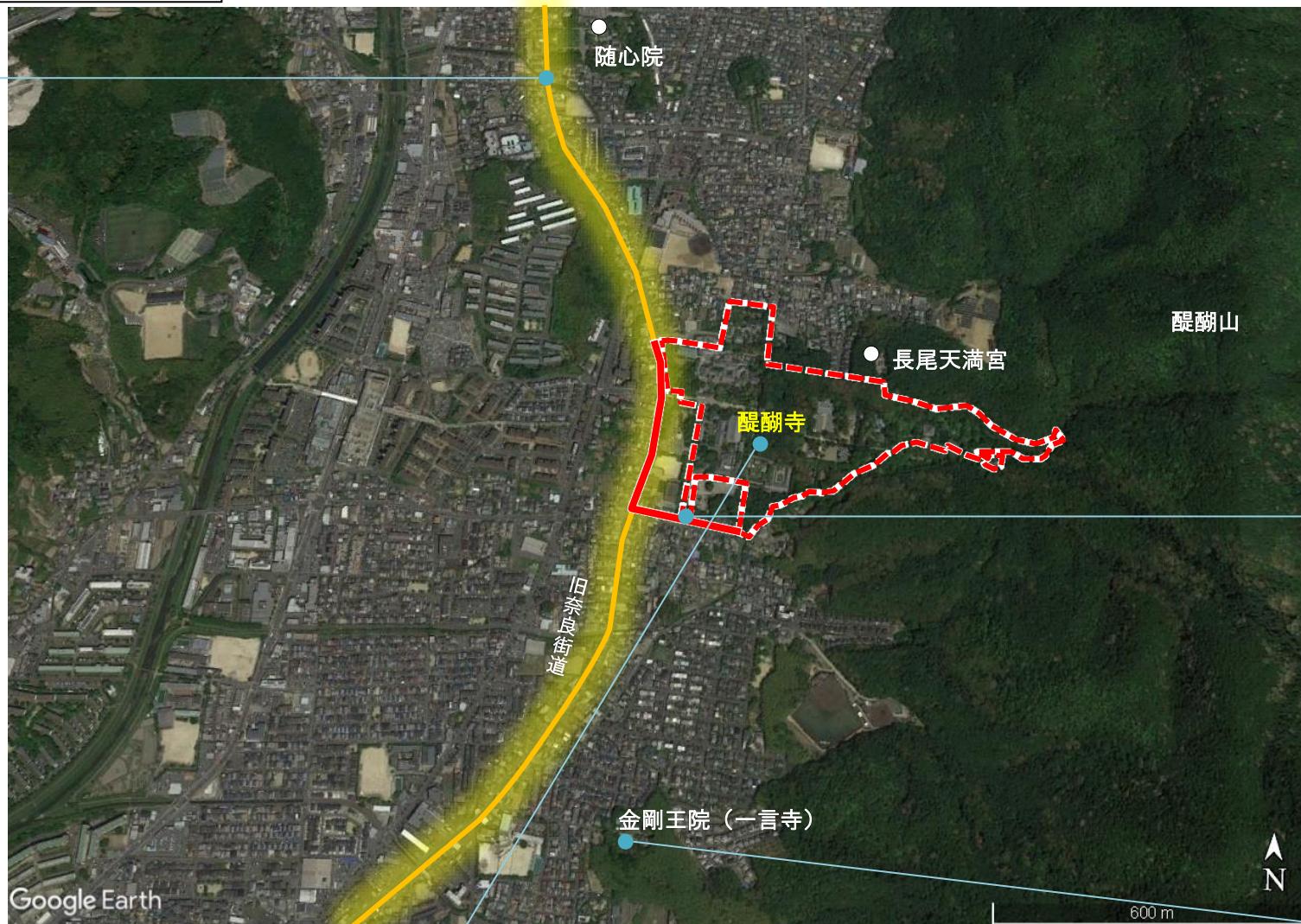
また、街道沿いには随心院が位置し、旧奈良街道に一連の景観が連続している。



旧奈良街道



随心院※



## 府道782号線

沿道には現在も古い建物が残っており、南門とその門前の通りの景観が一体的な景観を形成している。



## 金剛王院（一言寺）

醍醐寺の塔頭、別格本山である。参道沿いの住宅地の敷地前面は緑化されているところが多く見られる。

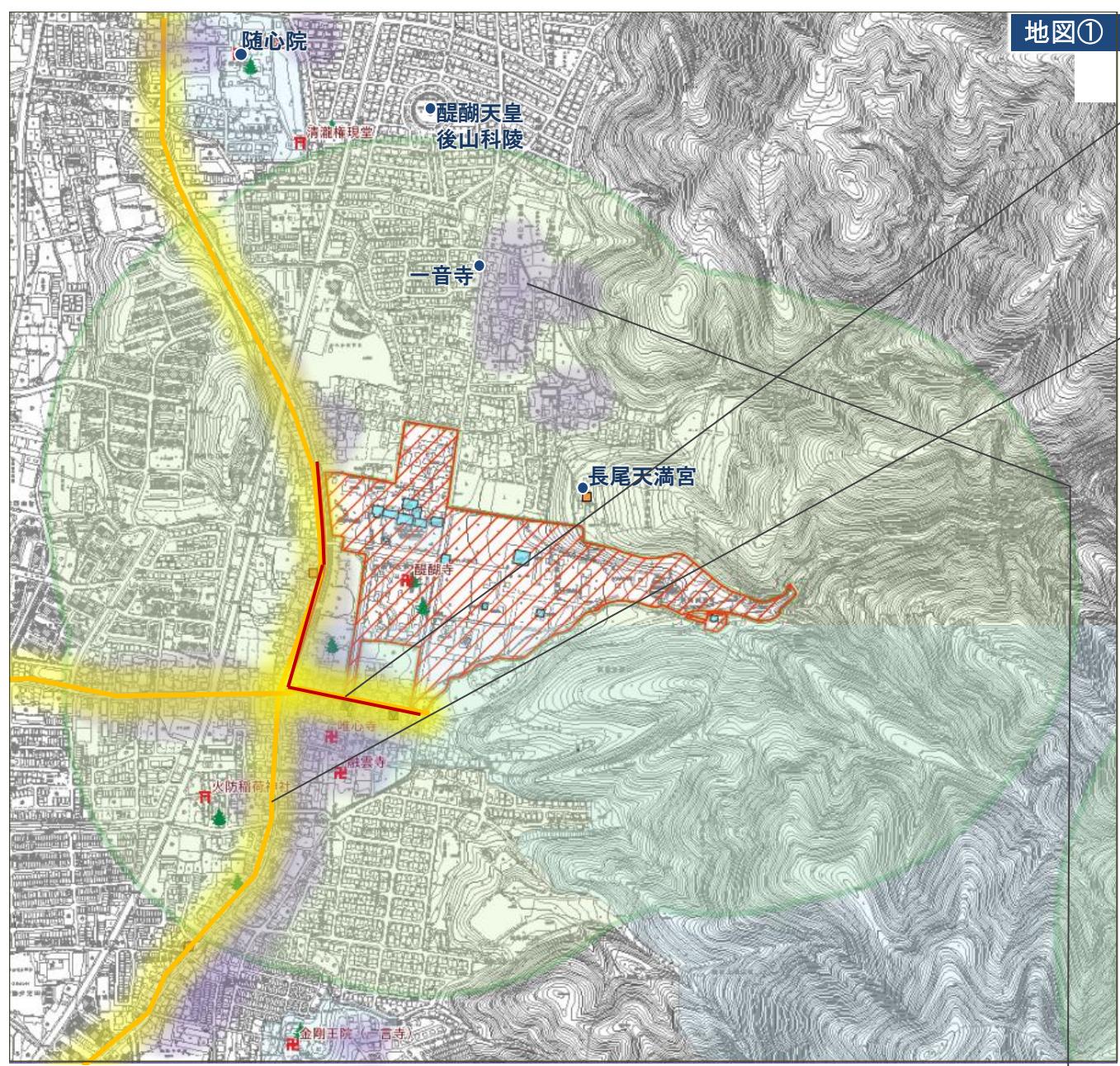


## 醍醐寺（世界遺産）

醍醐山を背景に、周囲の樹木と一体化した景観が見られる。旧奈良街道側には、塀の背後に松の木が並び、一体的な景観が望見される。



エリアの概要

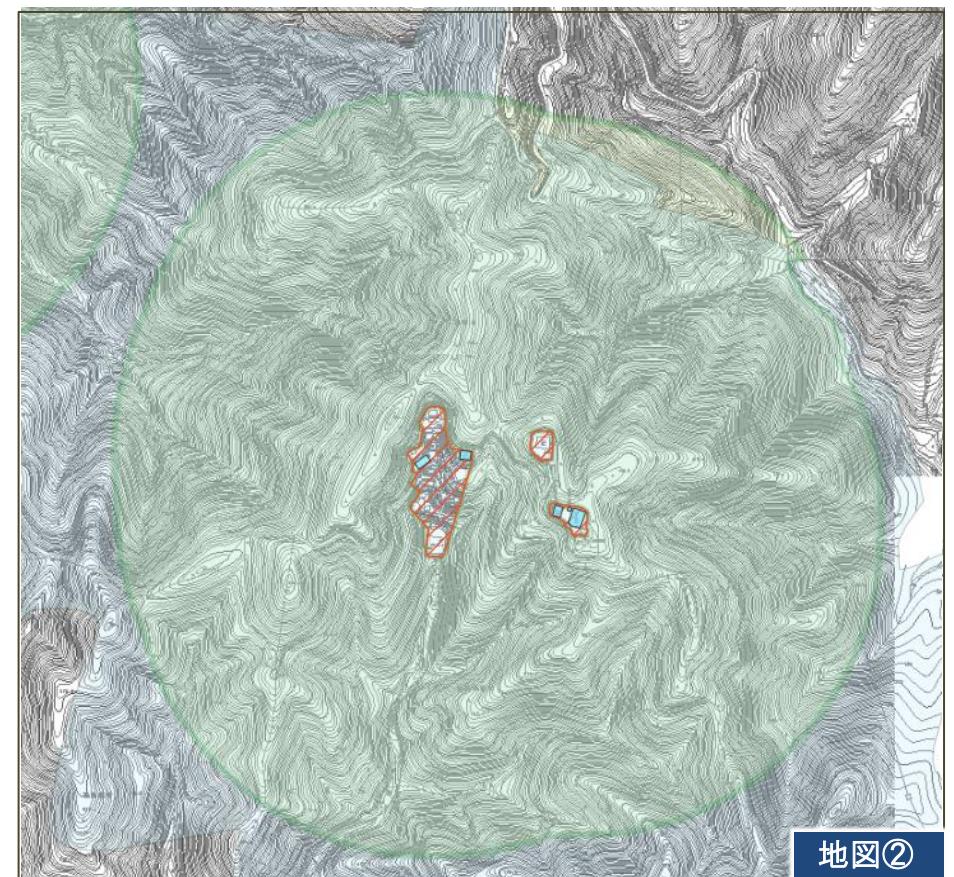


地図①

**府道782号線**  
 明治2年の古絵図には、上醍醐へ向かう道として描かれており、宅地化が早く、古い建物が残る。

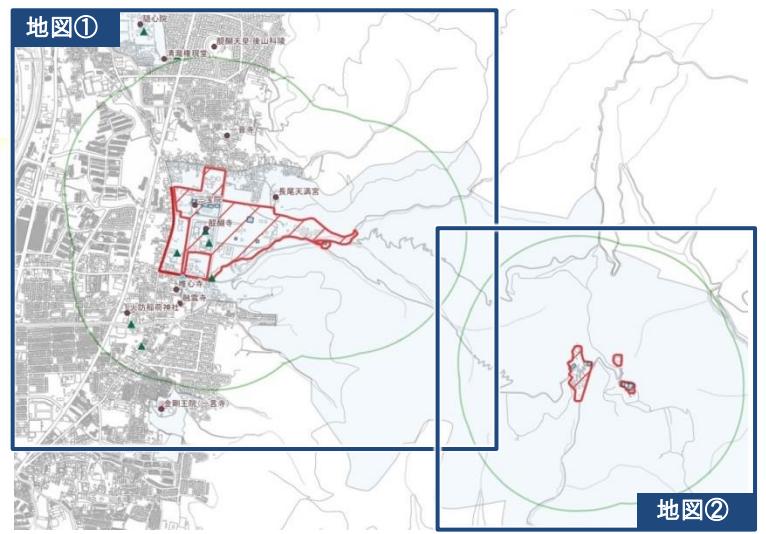


**旧奈良街道**  
 宅地化が早く、旧奈良街道沿いに現在も古い建物が残る。明治初期の古地図にも鮮明に記載がある通りである。



地図②

※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。



地図②

**醍醐寺北側**

宅地化が早く、醍醐寺北門へ続く道沿いに古い建物が残る。通り沿いには一音寺、朱雀天皇醍醐陵が位置し、寺院の塀や御陵への参道と古い建物の町並みが特徴的である。

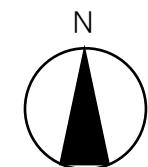
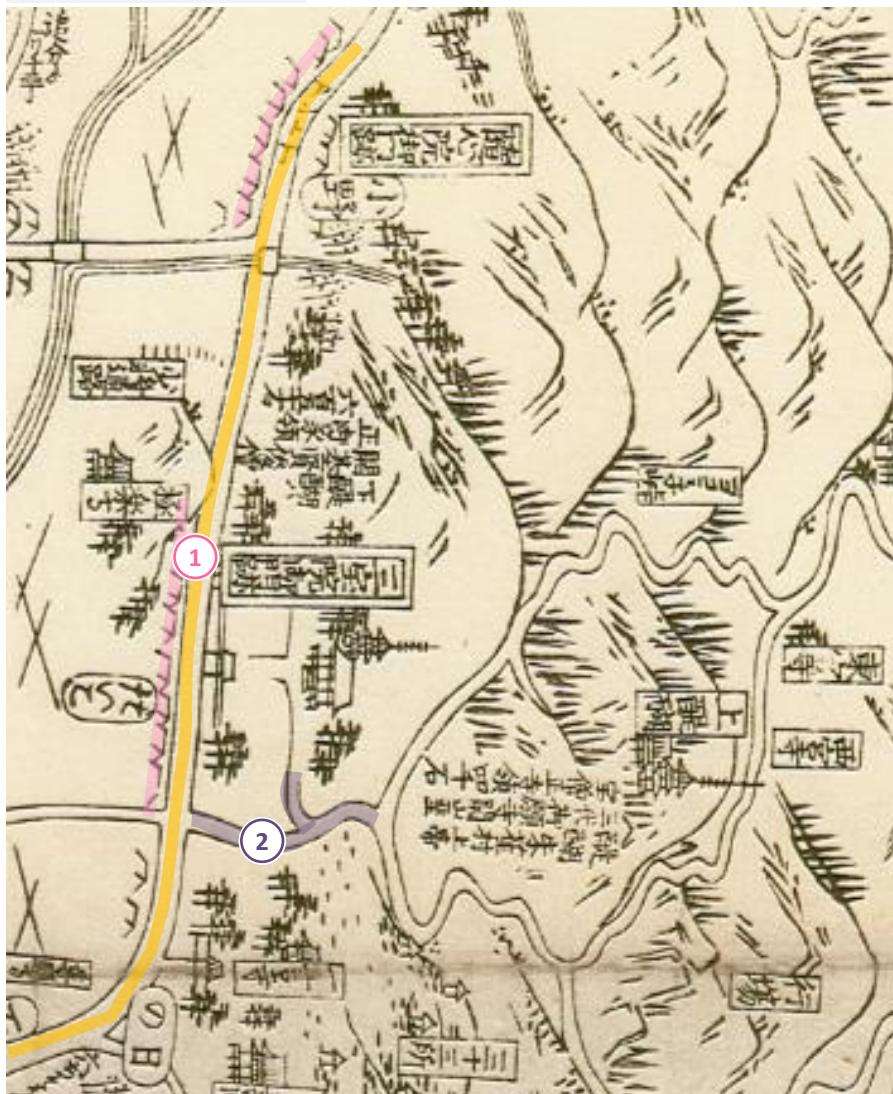


【凡例】	
	視点場(境内)
	視点場(参道等)
	近景デザイン保全区域
	特に着目する通り
	明治25年以前から存在する市街地
	界わい景観整備地区
	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
	歴史的意匠建造物
	界わい景観建造物
	京を彩る建物や庭園
	文化財(建築物)
	文化財(史跡・名称)
	国土地理院社寺データ等 ※
	樹木 天然記念物
	保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

# エリアの土地利用の変遷

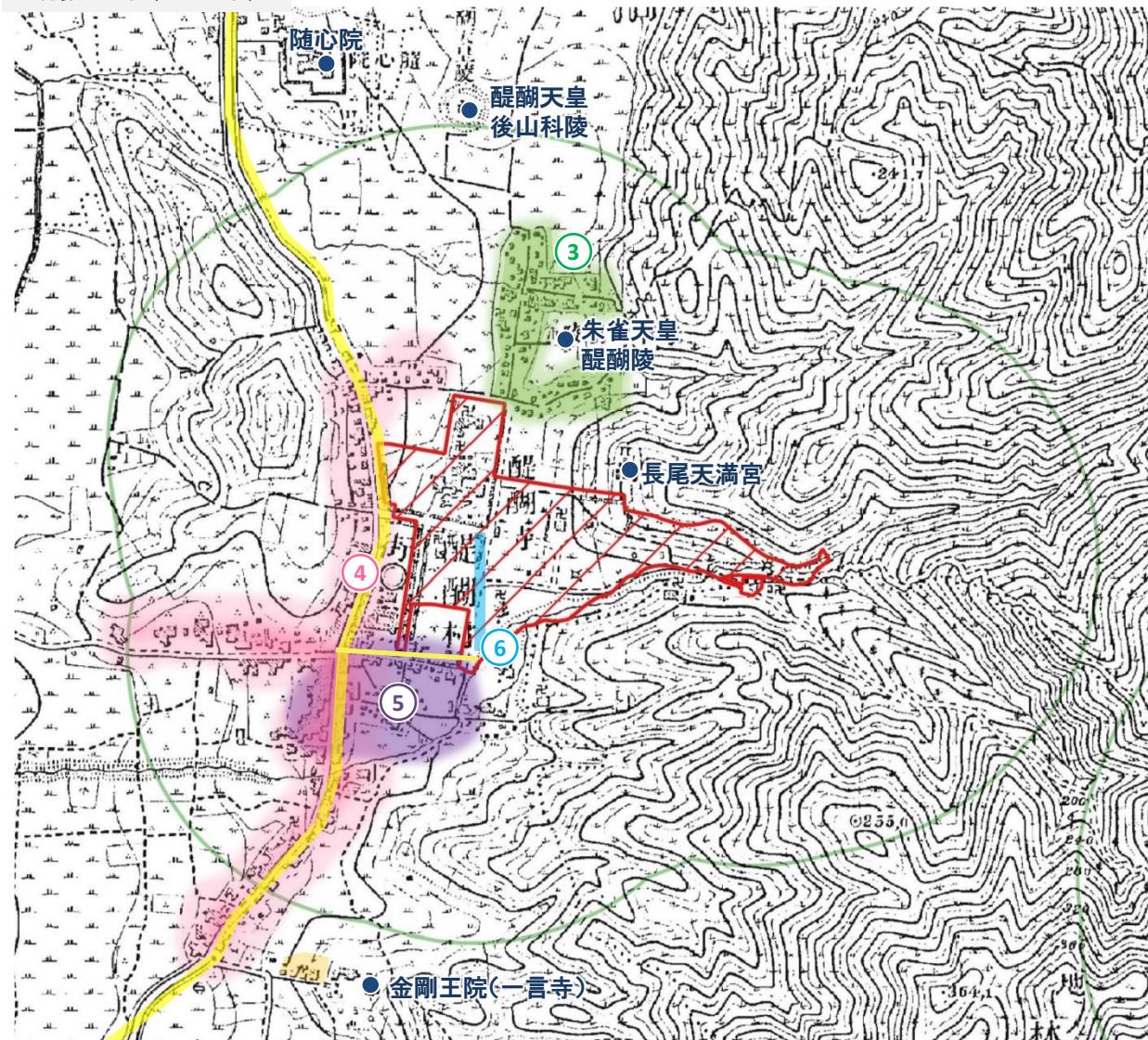
明治2年(1869年)



何町	何町	何町	何町
高跡	高跡	高跡	高跡
郡分	郡分	郡分	郡分
御封疆	御封疆	御封疆	御封疆
道筋	道筋	道筋	道筋
神社佛閣	神社佛閣	神社佛閣	神社佛閣
通筋名	通筋名	通筋名	通筋名
町々小名	町々小名	町々小名	町々小名
地名	地名	地名	地名

京町御絵図(明治2年)

明治25年(1892年)



- 近景デザイン保全区域
- 特に着目する通り
- 視点場(境内)

資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)  
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

## ① 旧奈良街道

旧奈良街道と思われる道が明確に描かれている。街道沿いの醍醐寺から、金剛王院(一言寺)の間と、随心院付近には、既に宅地が描かれていることが分かる。古く交通の要地であったがために、醍醐寺を中心として街道に沿った門前町として発達したとみられる。<sup>1)</sup>

## ② 醍醐寺南側

東西の道が既に描かれ、上醍醐への道として描かれている。

## ③ 醍醐寺北側

一言寺、朱雀天皇醍醐陵付近は既に宅地化している。

## ④ 旧奈良街道

旧奈良街道と国道782号線の交差点付近が宅地化が進んでいる。

## ⑤ 醍醐寺南側

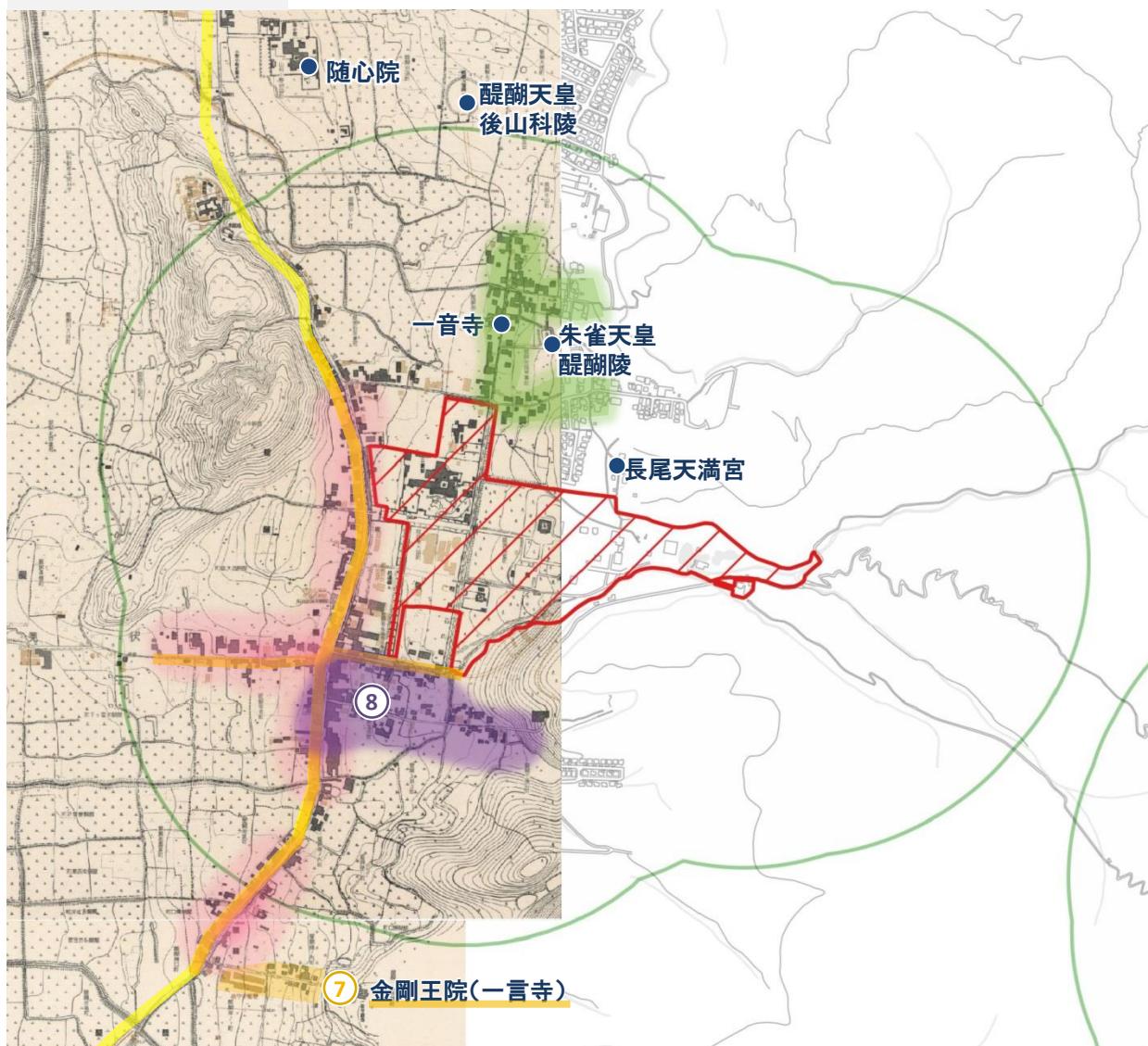
旧奈良街道より西側にかけて宅地化が進んでいる。

## ⑥ 醍醐村

醍醐村は、醍醐寺の創立から始まったとみられる。<sup>2)</sup>かつては、醍醐村全域は醍醐寺領となり、村の暮らしと寺との関係は深かった。村内には醍醐寺の被官人が住んでおり、寺領の山林の請負が村民によってなされていたという。<sup>3)</sup>醍醐寺は国家の保護を受けた大寺院であったため、寺の周囲には多くの住民が移住したという。<sup>4)</sup>

## エリアの土地利用の変遷

昭和28年(1953)



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)  
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))  
(※西側半分のみ)

画像:立命館大学アート・リサーチセンター

## ⑦金剛王院(一言寺)付近

旧奈良街道から一言寺へ向かう道沿いが宅地化している。

## ⑧醍醐寺南側

旧奈良街道より西側にかけても宅地化が進んでいる。

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

# 醍醐寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(1)

## 醍醐寺

醍醐寺は、伽藍が山上と西麓の平地とに分かれており、山上伽藍は貞観16年（874）に、平地伽藍は延喜4年（904）に整備が始められたと伝えている。その後たびたび火災にあい、16世紀末から17世紀初頭にかけて現在みられる姿に復興されたものである。

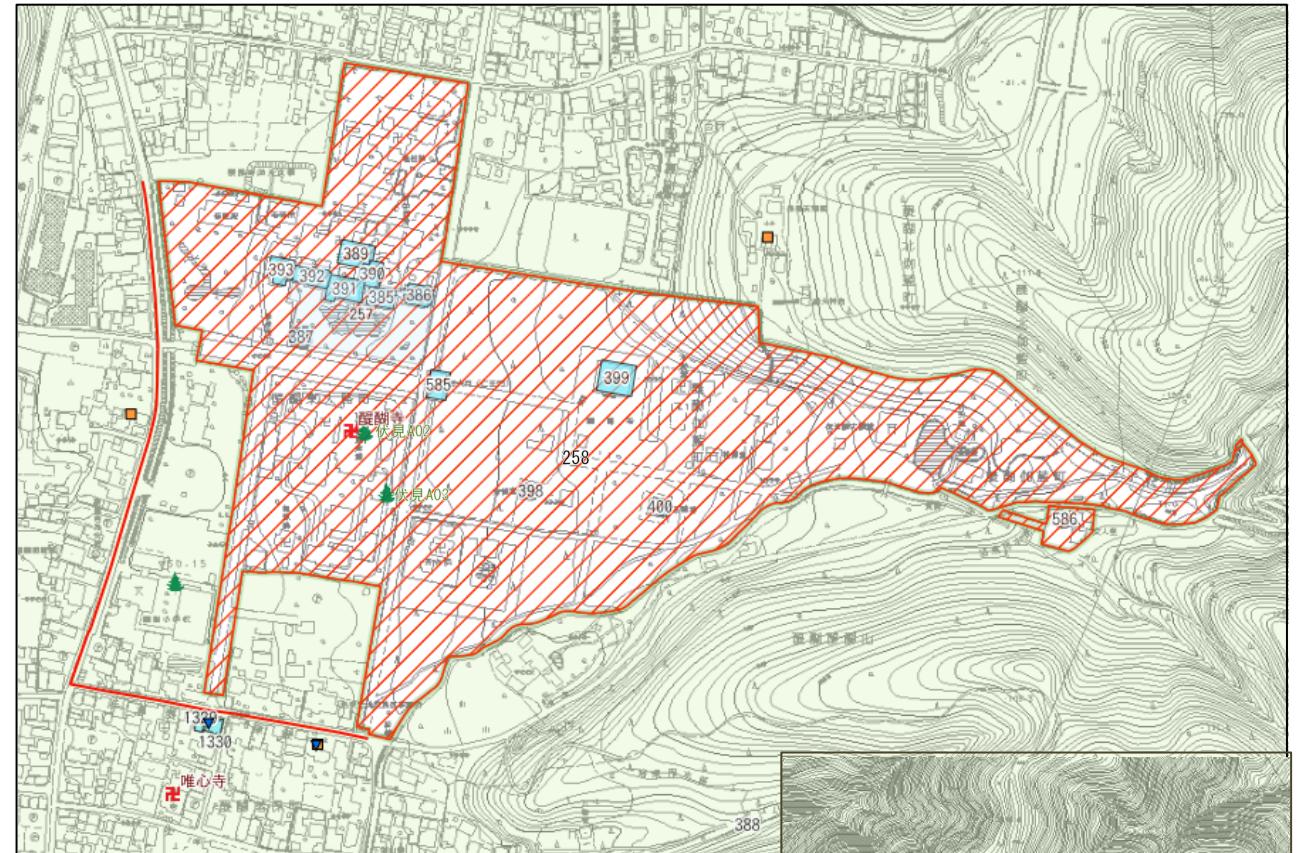
山上伽藍の薬師堂は、保安5年（1124）に再建されたもので、平安時代初期の礼堂をもたない仏堂の規模・様式を伝えており、また鎮守社清瀧宮拝殿は、永享6年（1434）に再建された懸造りの建物で、意匠的には住宅風に仕上げられている。

いっぽう平地伽藍のうち、天曆5年（951）に建立された五重塔は、年代が明らかな建物としては京都に現存する最古のもので、その外観は雄大で安定感があり、また初層内部に両界曼陀羅を描く点に密教寺院としての特色がみられる。金堂は、慶長5年（1600）に紀州満願寺の金堂を移築したもので、平安時代末期の仏堂の様式を残すものである。

現在、山上伽藍の薬師堂、清瀧宮拝殿、平地伽藍の五重塔、金堂、三宝院の殿堂表書院、唐門の6棟の国宝建造物、特別史跡特別名勝である三宝院庭園の他、9棟1基の建造物が重要文化財に指定されている。三宝院の表書院は、豊臣秀吉による慶長3年の花見に際して増改築されたもので、寝殿造りの様式が取り入れられている。また横に広がる庭園も秀吉が直接指示して造らせた豪華なものである。<sup>5)</sup>

## 文化財

国宝	三宝院殿堂 唐門	387				
	醍醐寺 薬師堂	396	醍醐寺 清瀧宮拝殿	397	醍醐寺 金堂	399
	醍醐寺 五重塔	400	三宝院殿堂 表書院	391		
国指定重要文化財	三宝院殿堂 純浄観	385	三宝院殿堂 護摩堂（御水堂）	386	三宝院殿堂 庫裏（白書院）	389
	三宝院殿堂 宸殿（奥殿堂）	390	三宝院殿堂 勅使の間、秋草の間及び葵の間	392		
	三宝院殿堂 玄関（大玄関）	393	三宝院宝篋印塔	388		
	醍醐寺 如意輪堂	394	醍醐寺 開山堂	395	醍醐寺 清瀧宮本殿	398
府指定文化財	醍醐寺 白山堂	584	醍醐寺 西大門	585	醍醐寺 女人堂	586
国指定特別史跡及び特別名勝	醍醐寺三宝院庭園	257				
国指定史跡	醍醐寺境内	258				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

### 【凡例】

- |  |            |  |                    |  |             |
|--|------------|--|--------------------|--|-------------|
|  | 視点場（境内）    |  | 建造物・庭園             |  | 樹木          |
|  | 視点場（参道等）   |  | 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 |  | 天然記念物       |
|  | 近景デザイン保全区域 |  | 歴史的意匠建造物           |  | 保存樹・区民の誇りの木 |
|  |            |  | 界わい景観建造物           |  |             |
|  |            |  | 京を彩る建物や庭園          |  |             |
|  |            |  | 文化財（建築物）           |  |             |
|  |            |  | 文化財（史跡・名称）         |  |             |
|  |            |  | 国土地理院社寺データ等        |  |             |

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m<sup>2</sup>以上の社寺データ

### 〔国宝〕



三宝院唐門※



醍醐寺薬師堂※



醍醐寺清瀧宮拝殿※



醍醐寺金堂※



醍醐寺五重塔※



三宝院表書院

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

## 醍醐寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

## [国指定重要文化財]



三宝院純浄観※



三宝院護摩堂※



三宝院殿堂 庫裏



三宝院殿堂 宸殿



三宝院表書院

三宝院殿堂勅使の間、  
秋草の間及び葵の間※

三宝院表玄関



醍醐寺如意輪堂※



醍醐寺開山堂



醍醐寺清滝宮本殿※



三宝院宝篋印塔※

## [府指定文化財]



醍醐寺白山堂※



醍醐寺西大門※



醍醐寺女人堂※

## [国指定特別史跡及び特別名勝]



三宝院庭園※

## [国指定特別史跡]



醍醐寺境内※

## ■ 樹木

ソメイヨシノ 伏見A02

[区民の誇りの木]

春には、参道の桜が満開になり、多くの観光客で賑わいます。



クロマツ：醍醐寺(総門前)

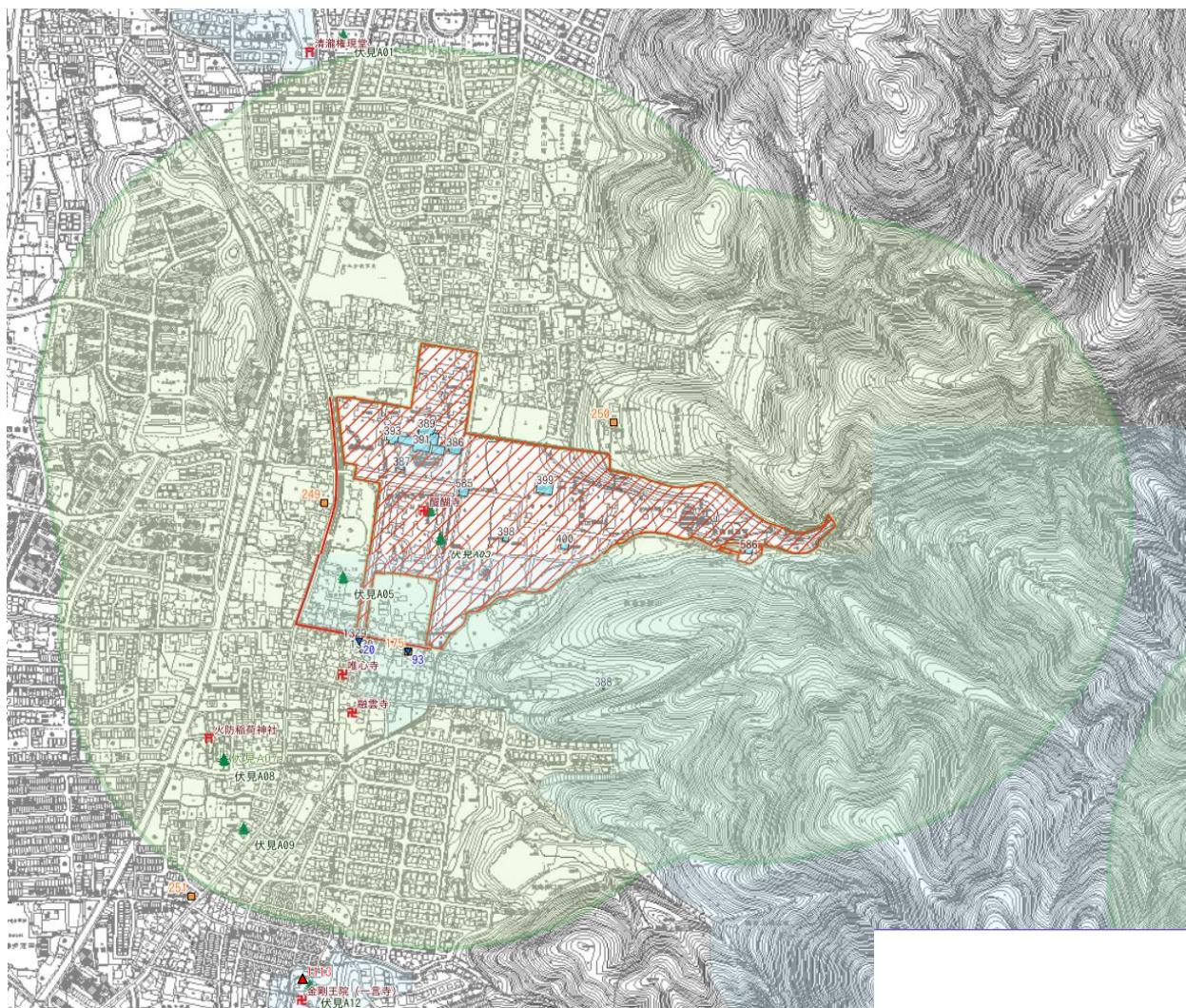
[区民の誇りの木]

伏見A03

醍醐寺の土塀に沿った50数本が街道沿いの並木になっています。東海道から分かれ、山科から伏見を経て奈良に至るこの街道は奈良街道と呼ばれます。奈良時代からの歴史ある古道で、クロマツの並木は昔の面影を感じさせます。



## 醍醐寺周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

## 【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

## 建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等 ※

## 樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

## ■ 金剛王院(一言寺)



伏見区醍醐一言寺裏町にある真言宗醍醐寺の塔頭。本坊の南西に位置。正しくは金剛王院（一言寺）。古く醍醐五門跡の一で、現在別格本山。平安末期、金剛王院流の祖聖賢の開創で醍醐三流の随一とされた。明治28年、付近にあった阿波内侍の開創と伝える一言寺址へ移転。本尊千手観音は、別名一言寺観音として有名。また例年8月17日・12月18日に金剛王院観音供で紫灯大護摩を修す。<sup>6)</sup>



ヤマモモ ▲1113、伏見A12

【区民の誇りの木、天然記念物】

参道の石段を登り、門をくぐってすぐ右側にある古木です。江戸時代からたくさんの実がなることで知られていました。現在は、根元部分を中心に治療が施され、大切に育てられています。

## ■ 随心院



※

山科区小野御霊町にある真言宗善通寺派大本山。小野門跡ともいう。東密事相の小野流の発祥地。一条天皇の正暦2年（991）仁海がこの地に曼荼羅寺を建立して本尊如意輪観世音を安置。五世増俊の時、随心院と改称、その後、七世親叡の時に門跡号を賜り、以後歴代撰家の子弟が住持した。殿閣も整い塔頭も多数あったが、承久・応仁の乱にかかり、のち荒廃。慶長4年（1599）二四世益孝が再興。二八世准三后増護は孝明天皇の信仰をうけ数度の御願法要を奉修した。明治44年一派として独立し真言宗小野派と称したが、昭和6年3月善通寺を本山とし善通寺派に所属した。絹本着色愛染曼荼羅図（鎌倉初期。二幅）や、快慶の胎内銘をもつ金剛薩埵坐像など数点の重要文化財を伝える。<sup>7)</sup>

## ■ 長尾天満宮



伏見区第五北伽藍町にある神社。祭神は菅原道真・大己貴命・須佐男命。天慶3年（940）、あるいは天曆3年（949）の創建という。長尾を遊覧した道真が、醍醐寺開山聖宝に自分の墓所をこの地に建てるように頼み、道真没後、聖宝の弟子観賢が墓所を築き、のち社殿を営んだという。一説に醍醐天皇の御願により道真の怨霊を鎮めるために創建したとも伝える。醍醐一帯の産土神・本殿（三間社流造）は文政四年（1821年）の再建。例祭は11月1日。<sup>8)</sup>

# 醍醐寺周辺のその他の歴史的資産

## ■ 景観上重要な建築物、庭園等

### 下村家住宅

〔国登録有形文化財(建造物)(主屋・離れ・戌亥蔵・辰巳蔵)景観重要建造物〕

(景観重要建造物指定理由)

江戸後期から明治前期にかけての変遷を覗うことが出来る農家型町屋の典型例として貴重であり、2棟の土蔵とはなれを含めて門前の景観を良好に継承する貴重な建造物である。



▼20

外観(北より見る)※  
国登録

### 山田邸

〔景観重要建造物/京都を彩る建物や庭園〕

醍醐寺に仕えた家職が住まう住宅として明治期に建築された住宅である。入母屋造りの式台玄関が特徴的である。

(京都を彩る建物や庭園 推薦理由(抜粋))

醍醐寺南門の向かいにあって、土塀に薬医門を構え、主屋の玄関に入母屋の式台玄関を設ける。庭も比較的良好な状態が保たれておられ、醍醐寺の周辺に点在する、地域の歴史を感じる事の出来る重要な建物の1つである。



▼93 ■175

(京都を彩る建物や庭園 認定理由)

山田家は醍醐寺と関わりのある家柄であり、現当主は18代目にあたる。建物は、明治8年(1875)の建築で、木造平屋建て、切妻造り棧瓦葺で、明治38年(1905)に大規模修繕したものと考えられる。屋敷の敷地は醍醐道に北面し、薬医門を入ると正面に間口約5間、奥行約5間の居住棟、これに雁行する形で間口約5間、奥行約4間の座敷棟が続き、座敷棟は南北に庭を配している。南側の緩やかな築山に囲まれた庭には、枯滝石組や庭の中央に築かれた中島の両側を周り込む枯流れが配され、北側の庭は杉苔が豊かに生えている。山田家は、式台玄関などを備え醍醐寺の周辺地域の歴史的文化を伝える建物として貴重である。

### しも村

〔京都を彩る建物や庭園〕

(京都を彩る建物や庭園 推薦理由(抜粋))

門前の旧街道に面して建つ、昭和初期建築の手打ち蕎麦屋である。建物の2階には、建具に沿って欄干が回り、当時の様子を現在に伝える。



■249



## ■ 樹木

スダジイ：醍醐小学校

〔区民の誇りの木〕

🌲 伏見A05

かつてこの場所は醍醐寺の境内でした。根元から2本の幹に分かれた大木です。



ムクノキ：火防稻荷大明神

〔区民の誇りの木〕

(写真の左一本) 🌲 伏見A07

エノキ：火防稻荷大明神

(写真の右二本) 🌲 伏見A08

3本が寄り添って生えていて、ともに大木に育っています。大きな根が現れ、力強さを感じさせます。



カヤ：善願寺 🌲 伏見A09

〔区民の誇りの木〕

通りからもよく見える大木で、小野小町ゆかりのカヤを移植したと伝えられています。



# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

## 醍醐風致地区

### 【景観特性】

#### ● 自然に溢れる景観や量感ある緑

醍醐風致地区は、大塚・大宅地域、本願寺山科別院一帯及び醍醐・日野地域から構成され、行者ヶ森等の急峻な山ろく部や東の山並みへと続く広大な敷地を有し、自然に溢れる景観をなす三宝院・醍醐寺等の量感のある緑が、この地域の眺望景観の重要な要素となっている。

#### ● 豊かな緑化・境内側の松林

山ろく部の大規模敷地の豊かな緑化が、背景の山の森林と一体となって、この地域の眺望景観を形成し、旧奈良街道沿いの境内側の松林は、かつての街道の雰囲気醸し出しており、重要な景観要素となっている。

### 【景観形成の方針】

#### ● 醍醐・日野地域の山地部の優れた自然景観

醍醐・日野地域は、東西の山地が接近し、その中間に独立丘（中山）があり、緑豊かな地形が形成され、醍醐寺及び随心院等を核として、かつては山地と寺院、そしてこれを取りまく農村という構図を構成していたが、近年では住宅地化してきている。そのため当地域では、醍醐山及び醍醐山南側の日野の山地部が、優れた自然景観を有しているため、これらの風致の維持を図る。

#### ● 随心院、醍醐寺・三宝院等の歴史的景観

随心院、醍醐寺・三宝院等の重要な景観要素、三宝院前の旧奈良街道沿いの伝統的な農家群、そしてわずかに残る独立丘陵の緑地部分等が、この地域の原風景を伝えている。特に、醍醐三宝院前の旧奈良街道は、境内側の築地塀や松林等の組み合わせが整った景観構成を見せており、これらに呼応するように、街道の集落側には町家、土塀のある民家等が断続的に続き、寺院と街道が交わる風趣あるたたずまいを醸し出しており、この歴史的景観の保全を図る。



1) 醍醐寺西側の町並み



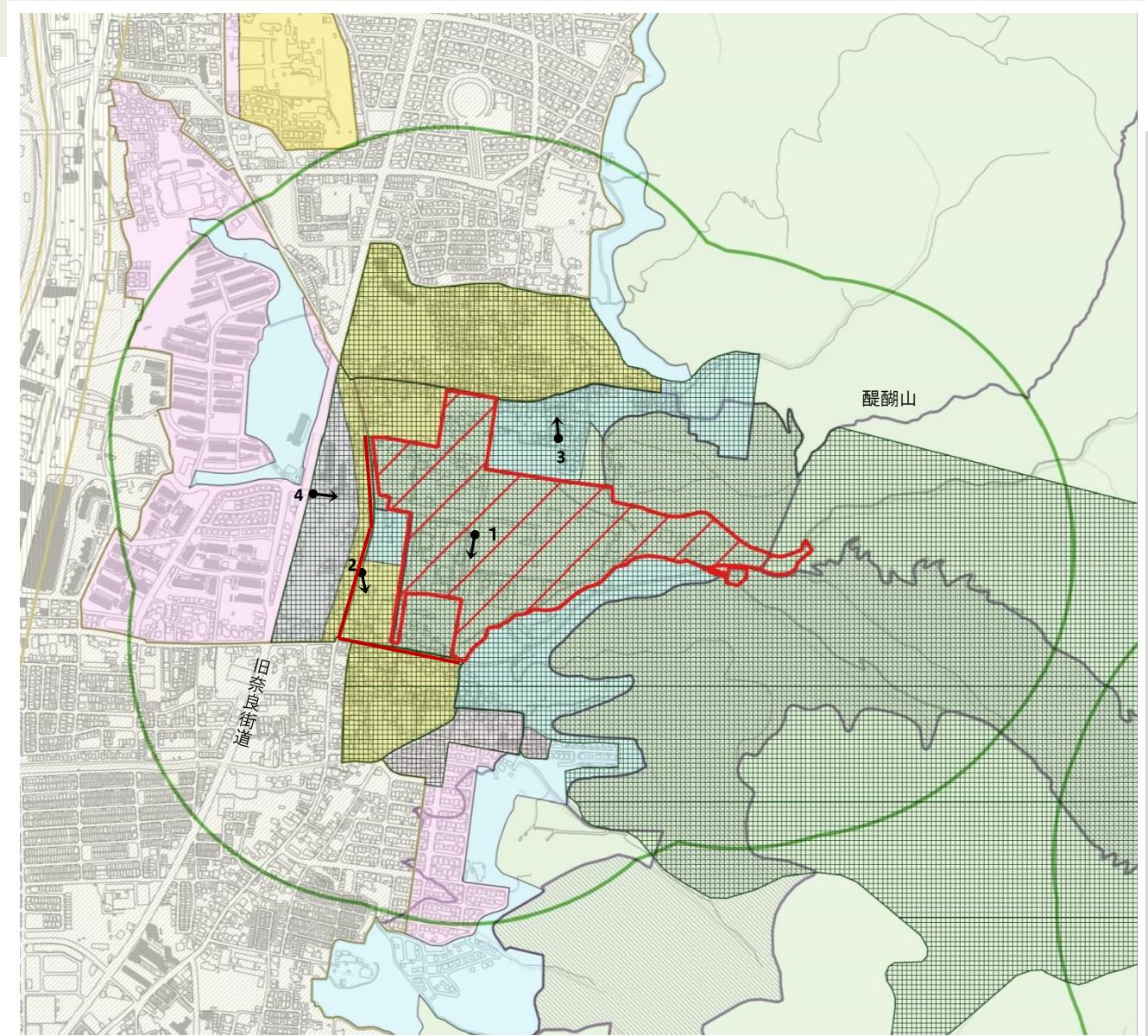
2) 旧奈良街道の松並木



3) 醍醐寺北側の住宅地開発



4) 府道からの眺望（醍醐寺方面）



【凡例】		
<b>眺望景観保全区域</b>	<b>景観地区</b>	<b>建築物修景地区</b>
視点場（境内）	山ろく型美観地区	山ろく型建築物修景地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区	山並み背景型建築物修景地区
近景デザイン保全区域	崖辺型美観地区	崖辺型建築物修景地区
<b>風致地区</b>	旧市街地型美観地区	町並み型建築物修景地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区	
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区	<b>その他</b>
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区	伝統的建造物群保存地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域	歴史的風土保存地区
風致地区第5種地域	沿道型美観地区	歴史的風土特別保存区域
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区	
	沿道型美観形成地区	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

- 1) 京都市 編『史料 京都の歴史第16巻 伏見区』平凡社、1991、p.62
- 2) 前掲1)、p.62
- 3) 前掲1)、p.64
- 4) 前掲1)、p.63
- 5) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会『千年の都 世界遺産古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)』第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会、1998、p.143、p.144
- 6) 佐和隆研 ほか編集『京都大事典』淡交社、1984、p.45
- 7) 前掲6)、p.529
- 8) 前掲6)、p.681